

大志を育む



平成 29 年 3 月 3 日
(教職員向け)
教育委員会だより
No. 14

発行：北広島市教育委員会

「働く喜び」と「世の中の厳しさ」の両面を・・・ キャリア教育

北広島市教育委員会 学校教育課 特別支援教育アドバイザー 荒木 実千子

「毎日同じような仕事をしながら少しずつ出世し、新卒で入った会社で定年退職する」という安定した働き方が難しくなっています。学校でキャリア教育を受けた生徒は、社会に出ても正規雇用者になる割合が高いこともわかってきました。20代の働き手の3人に1人が非正規雇用という時代、進学希望でも就職希望でもキャリア教育には大きな意味があります。

大学生に進学理由を問う調査では、職業を意識した時期が遅いほど、大学への進学理由を「すぐに社会に出るのが不安」、「自由な時間が欲しい」、「周りの人がみんな行くから」と考える傾向があるそうです。また、「目的がはっきりしないまま」高校へ進学し、「とりあえず」大学へ進学する生徒がたくさんいることも事実です。この目的意識の希薄さをよりよい方向へ導いていくのがキャリア教育なのです。

若者は、完全失業率や非正規雇用率の増加、早期離職者の存在など、大きな困難に直面しています。このような状況で、子どもたちに夢や希望を育むことや、実現困難な希望を抱く生徒に進路計画を立てさせるのが虚しいという思いを持つ人もいるかもしれません。しかし、厳しい状況があるからこそ、「働くことの喜び」と「世の中の厳しさ」の両面を伝え、厳しさを乗り越えるために必要な知識や態度等を育てることが重要だと思います。「自分はどのような生き方をしていくのか。自立した大人になるために何を準備すべきか」を考えさせることが大事であり、子どもたちには、どのような状況におかれても、順応したり、打開したりしながら、自分の力を発揮していける人になってほしいと願っています。

(参考文献：・H25 内閣府「年次経済財政報告」・文部科学省 HP ・Benesse 教育研究開発センターweb)



「きたひろ夢ノート The Ambitious Note」は、導入して2年目の今年度、各校での取り組みが深まり、市内全小中学校から担当者が集まる広教研（北広島市教育研究会）調査研究協議会での実践検証も行われています。子どもたちが、自分の生き方を考え、職業を意識し、志高く夢や希望を持ち、将来の予測が難しい社会の中をたくましく生き抜いていくために、夢ノートがその一助となるよう、今後も工夫改善を積み重ねながら活用の充実を図っていきましょう。

キャリア教育について

西の里中学校

本校では、地域の協力を得て1年生で地域の歴史や産業を学び、2年生では職場見学と職業体験学習をして、3年生ではキャリア講演会を実施し「将来の職業人を想定した進路選択」に向けたキャリア学習を推進しています。夢ノートは、総合的な学習でのキャリア学習のまとめの時に、自己を見つめる学習として活用しています。キャリア学習の集大成として今年度から「自分史」新聞の作成にも取り組んでいます。

夢ノート～実際の記述の様子

① 将来の夢や目標を書きましょう。
やってみたいことは？就きたい職業は？

看護師か保育士になる
おもしろい！「ほんをつくる」
発展途上国に学校を作る
看護師

保護者

小さい頃からよく遊ぶと偉い
子供だったので海外に行て
人助けをしたこと聞いた時は
00らしいな〜と思いました。

先生

目標に向かって粘り強く努力する
姿勢が身につきました。子供も
その時に感じた達成感や成功に
いから、持前の偉い武器
にして、立派な看護師になる
には頑張ってください。

北広島市教育研究会

事務局長 吉川 教諭 (大曲中)

広教研調査研究協議会は、昨年度から3年計画で北広島のキャリア教育と「きたひろ夢ノート」の活用をテーマに調査研究を進めています。今年度は、各校の夢ノート活用の実践交流や、キャリア教育計画の見直し、小中一貫教育に向けて中学校区でのキャリア教育全体計画の作成などを行いました。来年度は、北広島市が推進する小中一貫教育の柱の一つとなる、「大志学」のあり方について研究協議を行っていく予定です。

西部小学校の特色ある取組



◎今年度の教育指導目標（学校課題）

「強く、たくましく、全力で挑戦する子どもを育てる」

本校では「チーム西部小」をスローガンに掲げ、校長のリーダーシップのもと、教職員が一丸となって、教育活動を進めてまいりました。今年度の主な取り組みを簡単にご紹介いたします。

（１） コミュニティスクール

平成25年度より文科省の指定を受け、学校運営協議会を設置し、道内で2番目にコミュニティスクールをスタートさせました。地域とともにある学校づくりを目指し、様々な活動を行っています。

① 小中合同体力テスト

6月、初めての試みとして、西部中の2年生と5年生が合同で体力テストを実施しました。中学校の体育の教員と生徒たちが本校の体育館を訪れ、反復横跳びや長座体前屈等を行いました。初めは緊張していた子どもたちも、慣れるに従い、中学生に教わりながら意欲的に活動し、記録も大幅に上げることができました。

② CS 防災訓練

11月、本校体育館にて、西部中の3年生と6年生が参加し、小中合同CS防災訓練を実施しました。地域の防災マスターの方をお招きし、災害時の心がまえや避難方法を学ぶとともに、実際に救助活動の体験をしました。東日本大震災の教訓から、大切なのは「自分の命は自分で守る（自助・共助の精神）」ということ学びました。



③ 西部中合唱発表

10月、西部中の3年生と合唱部が音楽の集いの前にリハーサルを兼ねて、合唱を披露してくれました。心に響く、素晴らしい歌声に、子どもたちはとても感動していました。子どもたちにとっても、教員にとっても、大変貴重な機会となっています。

（２） 学力・体力向上の取組

① 家庭学習

ノート見開き2ページを基本とし、内容は学年の発達段階に応じたものに取り組みます。本校では年3回（6月・11月・2月）強化月間を設け、職員会議にて担任より取組状況や課題と改善策の交流を行っています。合わせて、校内に実際の子どもが取り組んだノートの写しを掲示し、意欲の喚起に努めています。



② チャレンジラン

通年（冬季を除く）で全校的に取り組んでいるのがチャレンジランです。学年ごと決められた日の休み時間、子どもたちが校舎の周りを元気に走ります。担任と一緒に走る学級もあります。前後期、2回タイムを計測し、学年上位の児童の記録を掲示します。

③ 長縄大会

冬場の体力向上として、全校で長縄に取り組んでいます。校内長縄大会に向け、学級ごとにメンバーや作戦を相談します。体力向上はもちろん、学級の絆を深めるのに役立っています。